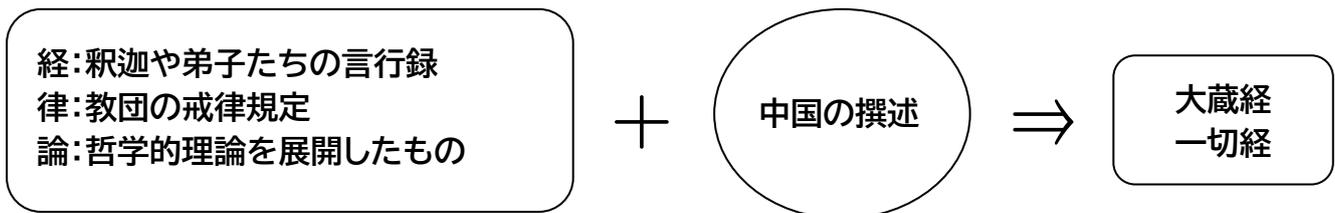


大蔵経・一切経の調べ方

経律論の三蔵と中国の撰述を加えた仏教の基本的な叢書を「大蔵経」または「一切経」といいます。前者が中国の隋時代以降の呼称に対して、後者は中国の南北朝時代から使用されています。大部の大蔵経の中から1つの経典を探し出すのはなかなか大変です。それでは、大蔵経の調べ方をみていきましょう。



1. 府立図書館の所蔵する主な大蔵経・一切経

- 『大正新脩大蔵経』100巻(大正一切経刊行會 1924-1934) 【134/220/#】中之島
正篇(漢訳の経律論・中国撰述の仏典)55巻、続篇(日本撰述の仏典)30巻と図像12巻、総目録3巻から成る。漢訳経典および漢文で著された仏教典籍の集大成でもある。(漢訳)
『大正新脩大蔵経図像』のみ中央所蔵(大正新脩大蔵経刊行会)(1977-1989)【134/1271/#】
- 『大日本続蔵経』(いわゆる「卍続蔵経」)(藏経書院 1905-1912) 【134/4/#】中之島
『大日本校訂訓点大蔵経』(いわゆる「卍蔵経」)の続編。『大正新脩大蔵経』に収録されなかった中国撰述書も収録されている。目録は『大日本続蔵経目録』【134/4/#】がある。(漢訳)
*『大日本校訂訓点大蔵経』【134/2/#】:1902-1905年に京都藏経書院より刊行された漢訳大蔵経。
- 『新纂大日本続蔵経』第90巻(国書刊行会 1975-1989) 【183/75N】中央
第89巻が目録部、第90巻が索引部。(漢訳)
- 『日本大蔵経』48巻(日本大蔵経編纂会 1914-1921) 【134/3/#】中央
完全な大蔵経ではなく、漢訳大蔵経の中の重要な経律論を取り出す。経律論の注釈書のほか、日本撰述の仏典753部を収録する。
- 『国訳大蔵経』(国民文庫刊行会 1917-1928)【134/218/#】【134/15/#】中之島【183/K1/1】中央
日本語訳の大蔵経。現代語訳ではない。
『新国訳大蔵経』(大蔵出版 1993-刊行中) 【183/15N】中之島
- 『国訳一切経』(大東出版社 1928-1944) 【134/433/#】中之島
改訂(大東出版社 1979-1991) 【183/9N】中央
「印度撰出部」(155巻)と「和漢撰出部」(100巻)からなる。現代語訳ではなく、書き下し文。

■『南伝大蔵経』(65 巻 大蔵出版) 【134/571/#】中央
 スリランカ、東南アジアに伝承する仏典を 1935(昭和 10)年から 1941(昭和 63)年までに日本語
 に完訳したもの。現代語訳ではなく、書き下し文。上座部仏教を知るうえで貴重な仏典資料。

お経によっては現代語訳されているものもあります。
 《現代語に訳されているものを当館蔵書検索で探すには》

[その 1]

(見たい経典が決まっている場合)
 書名欄に「現代語」、もしくは「和訳」と入力します。続いて下の検索項目も書名に変更し「経典名」を入力します。

書名	現代語	中間	AND
書名	法華経	中間	AND
書名		中間	AND
書名(完全一致)		中間	AND
著者名		中間	AND
出版社		中間	AND

[その 2]

書名欄に「現代語」もしくは「和訳」と入力し、NDC 分類の欄に「18」(18 は仏教の分類番号)を入力し検索してみてください。

書名	現代語	中間	AND
著者名		中間	AND
出版者		中間	AND
件名		中間	AND
NDC分類	18	中間	AND

現代語訳されているお経を一部ご紹介いたします。

『法華経:梵漢和対照・現代語訳』上下巻(植木雅俊/訳 岩波書店 2008.3) 【183.3/85N】

『般若心経:現代語訳』(ちくま新書 玄侑宗久/著 筑摩書房 2006.9) 【L71/615N】

『現代語訳大乘仏典』(中村元/著 東京書籍 2003.2) 【183/55N】

- 1 般若経典 2 法華経 3 維摩経 勝鬘経 4 浄土経典 5 華嚴経 楞伽経
- 6 密教経典・他

2. 仏典を調べる本

目録・索引を使って探すお経がどこに収録されているか調べます。

■『日本仏教全集叢書資料総覧』全 3 巻(本の友社 1986.12) 【180.3/21N】

明治以降に刊行された仏教全集・叢書に収録されている仏典類を網羅的に目録化したもの。経典以外の目次も収録されている。(例えば、『石山本願寺日記』など)

「総目次篇」2冊は 50 音順に全集・叢書を配して、その目次を一覧することができる。この中に『国訳一切経』などを収めている。「総索引編」で仏典名の部首、画数順に配列されているので、書名のヨミが分からなくても調べることができる。

■『大蔵経全解説大事典』(雄山閣 1998.8) 【183/31N】

『大正新脩大蔵経』に収められた全典籍を収録順に並べ、成立、内容関連する典籍、参考文献等を記す。巻末に 50 音順の索引を載せる。ここから見たい典籍が『大正新脩大蔵経』のどこに収められているかを調べることができる。

- **web** 大正新脩大蔵経テキストデータベース 東京大学大学院人文社会系研究科
<http://21dzk.l.u-tokyo.ac.jp/SAT/>
『大正新脩大蔵経』の第1巻から第85巻までをデータベース化したもの。全文検索が可能。

- **web** CBETA Online 線上閲読 (中華電子仏典協会)
<https://cbetaonline.dila.edu.tw/zh/>
高麗大蔵経、中華大蔵経など多くの中国仏教文献が収録されている。全文検索が可能。

- 『一切経解題辞典』(大東出版社 2002.3) 【183/51N】
『国訳一切経』に収録する仏教典籍に主要仏典を追加した書目の解説。典籍の50音順に並べられている。画数から引く漢字索引があるので、ヨミが分からなくても調べることができる。『大正新脩大蔵経』等の大蔵経・一切経のどこに収められているかも記してある。注釈書が付されており、その仏典に関する調査の手掛かりとなる。

- 『総合仏教大辞典』全3巻(法蔵館 1987.11) 【180.3/22】
第3巻に別冊として、仏教主要叢書目録および総索引(冠字画引・和文索引・欧文索引)を収録。画数からも引けるので、ヨミが分からなくても調べることができる。『大正新脩大蔵経』等の大蔵経・一切経のどこに収められているかも記してある。

- 『佛書解説大辞典』全15巻(大東出版社、1933年初版、1965-78年改訂増補版)【180.3/12】
仏教典籍約9万点を解説。書名、略名、巻数、存欠、著者名、訳者、内容解説、参考図書、所蔵館等が記載されている。
初版は1933年。1978年に出版された12・13巻は初版以後に公刊された仏教書の解説を増補している。

- 『仏典解題事典』第3版(春秋社 2020.12) 【183/10NX】
インド・チベット・中国・日本・朝鮮(韓国)の重要な経典・論書等について、典拠や内容解説・参考書・テキスト等を紹介している。

3. どのようにして調べるか？

Q. 華嚴経が全文載った資料が見たい。

A. 『日本仏教全集叢書資料総覧 総索引篇』で調べる。

「華嚴経」の箇所(p.502)を見ると、「大方広仏華嚴経」の項目を見よ、とあるので、

「大方広仏華嚴経」の項目を見ると、例えば、

①『国訳一切経 印度撰述部 華嚴部 1』～『国訳一切経 印度撰述部 華嚴部 4』の4冊

②『大正新脩大蔵経 第9巻・法華部全・華嚴部上』と出てきます。

①は書き下し文で読むことができます。中央図書館でも所蔵があります。

②は漢文で和装書の資料です。中之島図書館の所蔵となります。

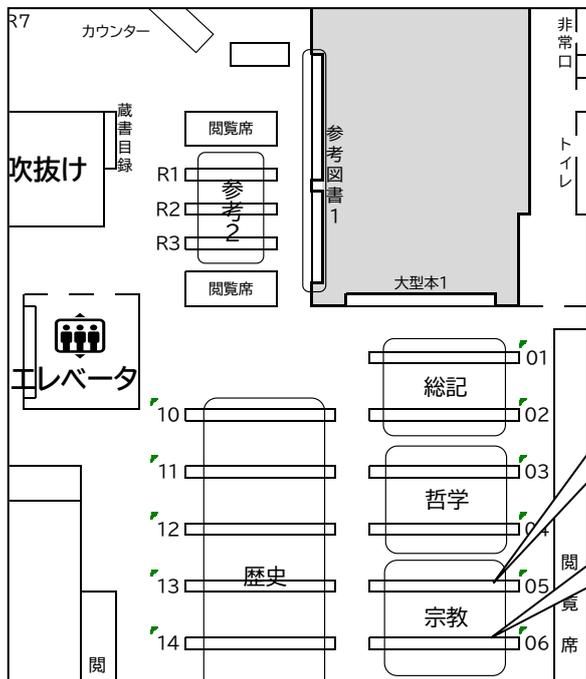
また、国立国会図書館デジタルコレクションで、図書館・個人送信限定公開されています。

『大正新脩大蔵経 第九巻』 <https://dl.ndl.go.jp/pid/3434903>

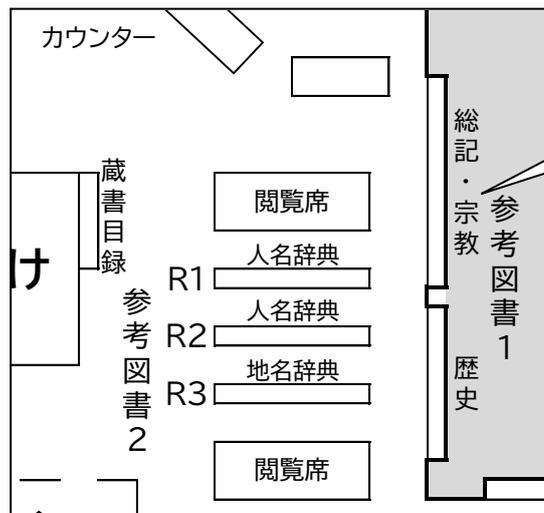
p.395-788(205-402コマ)

4. 仏典に関する本の場所

般若心経や法華経などの経典に関する資料は、4階の NDC183(05B と 06A の本棚)に並んでいます。



- 183.1 阿含部 阿含経、玉耶経、六方礼経など
- 183.2 般若部 金剛経、心経、大般若経、仁王経
- 183.3 法華部 観音経、観普賢経、法華経、無量寿経など
- 183.4 華嚴部 華嚴経
- 183.5 宝積部 阿弥陀経、観無量寿経、宝積経、無量寿経
- 183.6 経集部 円覚経、金光明経、維摩経など
- 183.7 秘密部 金光頂経、大日経など
- 183.8 律部
- 183.9 論部



(参考資料)

『岩波仏教辞典 第三版』(岩波書店 2023年)

『一切経解題辞典』(大東出版社 2002年)

『世界大百科事典』(平凡社 2007年)

『デジタル時代の中国学リファレンスマニュアル』(好文出版 2021.3)

国立国会図書館 調べ案内 大蔵経(一切経)を調べる

https://ndlsearch.ndl.go.jp/rnavi/humanities/post_101024

神奈川県立図書館 仏教資料・情報の探し方

<https://www.klnet.pref.kanagawa.jp/publications/public-relations/library-navi/2017/09/no6201798.html>